

# 韓国の高等教育機関における芸能関連学科の動向

## —演劇映画学科と実用音楽学科を中心に—

沈 雨香・韓 冀娜・金 ソルネ

### 序 論

本稿は韓国の高等教育機関における芸術教育，なかでも2000年以降急激に増加している演劇映画学科と実用音楽学科に注目し，急成長の動向を把握するとともにその背後の問題を検討することを目的とする。

韓国の場合，国立ソウル大学をはじめとする，ほとんどの4年制の総合大学が，学部として芸術学部を設置しており，芸術教育においても総合大学が大きな役割を果たしているといっても過言ではない。なぜなら，芸術大学は存在するものの，日本の短期大学にあたる2・3年制の専門大学（以下2・3年制大学）が主であり，芸術教育専門機関でありながら，社会福祉，レジャースポーツ，乳児教育などの芸術分野ではない学科を設置しているところが多く，芸術教育に特化しているとはいえないからである。また，芸術大学ではない2・3年制大学も芸術学部を設置しているところが多く，高等教育機関における芸術教育の役割分担は存在しないといえる。

韓国の大学で行われる芸術教育の詳細は大きく3つの系列に分類できる。第一は絵画，彫刻，デザイン等を含む美術系であり，第二は声楽，管弦楽，作曲，実用音楽等を含む音楽系で，これら2つの芸術領域は日本でも芸術学部やそれぞれを専門にする学部・学科として設置されている。しかし，第三の舞踊や演劇映画等の音楽以外の公演芸術系は，日本の高等教育機関ではあまり例を見ないようなものである。このように，伝統があるとされる美術や音楽教育以外に公演芸術も高等教育機関における芸術教育の範疇に入っており，純粋芸術から大衆芸術まで幅広い芸術分野が扱われていることが，韓国の芸術教育の最大の特徴であるといえる。

ここまで述べてきた，韓国の高等教育機関における芸術教育の事情は日本のそれとは異なるものである。特にここ10年，大衆芸術の中でも芸能・放送界と深く関わる学科が急激に増加しており，他に類を見ない動向を見せている。そこで，本稿では，伝統があるとされる演劇映画学科<sup>(1)</sup>・実用音楽学科<sup>(2)</sup>をはじめ，主に2000年代以降新設され始めた，エンターテインメント学科，放送芸能学科<sup>(3)</sup>など，のちに芸能人や芸能界で活動ができる人材養成を目的としている学科を芸能関連学科と定義し，その概要と発展過程，そして，入試倍率から窺える現状を検討することで，韓国における芸能関連学科の動向を明らかにしていく。

また，芸能人は，その学問的定義がまだ明確に統一されていないため，本稿では，韓国雇用職業分

類の第6次改正で定義されている「大衆文化を形成するメディアを通じた、歌手・タレント・俳優・モデルなど、テレビ放送・芸能プログラムに出演する一連の職業群を指す」<sup>(4)</sup>の意味で使用する。

## 1. 芸能関連学科

本節では、このような芸能関連学科のうち、その歴史や設置学校数から韓国の芸能関連学科を代表する、演劇映画学科と実用音楽学科の2つの学科を中心にその概要と発展の過程を分析していきたい。

### 1-1. 演劇映画学科の概要と発展

演劇映画学科とは、演劇と映画に対する研究を行うことで、劇芸術分野の発展を図る学科である。演劇映画学科では、公演芸術と映像媒体などを重要なコミュニケーション手段として認識し、各媒体の特性を比較・研究する。各媒体が持っている一般的な性格と機能を理解すると同時に芸術的・美学的側面も幅広く認識させることで、映像と公演芸術分野の専門家を養成することを教育目標としている。主な必修科目は、演劇概論、映画史、即興演技、喜劇分析、映画作家論などがある<sup>(5)</sup>。しかし、演劇と映画の研究をその目的としてはいるものの、韓国職業能力開発院がキャリア教育資料として提供している演劇映画学科概要によると、卒業後の進路と関連職業として、CF監督や俳優、声優、コメディアンなどの職業が明記されており、演劇映画学科は、演劇や大衆映像メディア業界で活躍できる芸能人養成もその役割の1つとしている。そして、実際、有名演劇映画学科出身の俳優が映画界や放送・芸能界で活躍しており、演劇映画学科は俳優をはじめとする芸能人を養成する場として人々に広く認知されている。

1959年、韓国の名門大学の1つである中央大学で初めて開設された演劇映画学科は、2014年現在、190校<sup>(6)</sup>ある4年制大学のうち98校、137校<sup>(7)</sup>ある2・3年制大学のうち53校、合計151校にて設置されている<sup>(8)</sup>。図1は、韓国教育開発院による教育統計年報を基に、演劇映画学科を設置している4年制大学と2・3年制大学の設立年度からその増加の推移を示したものである。

韓国における演劇映画学科の歴史は、1960年代にさかのぼる。1959年の中央大学（ソウル）での新設を皮切りに、1960年には漢陽大学（ソウル）、1962年には東国大学（ソウル）にて開設される。その後、1981年に清州大学（忠清北道）で演劇映画学科が設立されるまでのおおよそ20年間、演劇映画学部を設置している大学は3校に過ぎなかったのだが、1980年から1990年までの10年間6校が増え、1990年代後半に入ってからは急速な増加傾向を見せており、2014年現在、計98校が演劇映画学科を設置している。韓国の4年制大学の数が190校であることを踏まえると、全体の5割以上の4年制大学にて演劇映画学科が開設されていることとなり、4年制大学における演劇映画学科が決して珍しいものではないことを確認することができる。

一方の2・3年制大学は、1964年のソウル芸術大学<sup>(9)</sup>で新設され、20年後の1984年に大邱科学大学での学科開設から1995年までには2校に留まっている。しかし、4年制大学に比べるとその増加の傾向が緩やかではあるが、1990年代後半から現在まで大きくその数を増やしていることを確認で

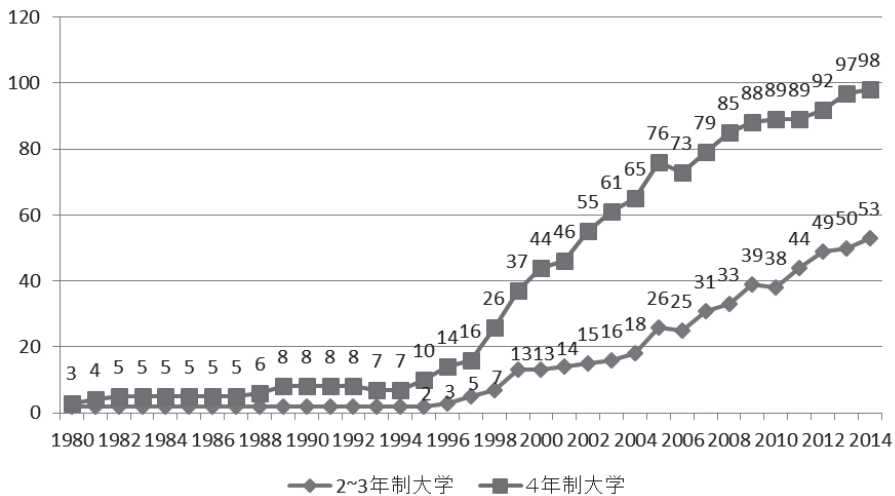


図1 演劇映画学科の増加推移

出典 韓国教育開発院の教育統計年報より筆者作成

きる。加えて、全体における割合も137校中53校と約4割となっており、4年制大学のそれを下回っている。

演劇映画学科のこのような増加傾向は、韓国の映画産業の発展と深く関連している。韓国の映画産業は1990年代後半から著しく発展しておりそれを第1次発展期、第2次発展期に分けることができる。第1次は1997年から1999年までの2年間で、SAMSUNG映画事業団をはじめとする大手企業が映画産業に参入し、マルチプレックス<sup>(10)</sup>(multiplex)が登場した時期でもある。また、スクリーンクォータ制度<sup>(11)</sup>(screen quota)の導入などで、韓国国内の映画産業に対する関心が高まった時期で<sup>(12)</sup>、演劇映画学科も4年制大学で21校、2・3年制大学で8校が新たに演劇映画学科を開設しているなど、その数を大きく増やした時期に当たる。その後、2002年から現在に続く第2次発展期は、2003年、韓国の有名映画監督イチャンドン<sup>(13)</sup>が文化観光部（現文化体育観光部）長官に任命されたことで、映画界の威信が高まるとともに、映画の製作本数やそれに対する投資額はもちろん、観客数も大きく増加し、莫大な供給と需要をもって、映画産業そのものが著しく発展し続けている時期である（チェ：2012）。また、映画だけでなく、テレビ番組などの大衆映像メディア市場そのものも大きく発展し、韓国で製作されたドラマやバラエティ番組などが海外に輸出されるなど、いわゆる韓流ブームが続いていることも現在に続く演劇映画学科の増加と関連付けることができる。

同時に演劇映画学科の人気も高まっている。演劇映画学科の2010年度入試の平均倍率（入学者／志望者）は86.9で、翌年2011年度の入試倍率の平均は91.7<sup>(14)</sup>であった。演劇映画学科の中で最も倍率が高かったのはソウルに位置する有名4年制大学である国民大学で、その倍率は209.3まで上る。当年の2・3年制、4年制大学を合わせた首都圏大学の入試倍率の平均が10.6で、非首都圏大学だと4.3に過ぎなかった<sup>(15)</sup>ことを踏まえると、その人気の高さを確認することができる。

## 1-2. 実用音楽学科の概要と発展

実用音楽学科とは、音楽の全般的な理論の確立と各専攻（ボーカル・ドラム・ギター・作曲など）における演奏能力及び創作能力を習得させることを目的とする学科である。ジャズの理論的基盤を中心にしたジャズと大衆音楽の理論と実践が主な教育内容で、現代の大衆文化の高級化を先導する専門ミュージシャンの養成を教育目標としている。主な必修科目は歌謡作詞・作曲法や高級編曲法、コンピュータ音楽、実用音楽の歴史及び鑑賞などがある<sup>(16)</sup>。また、韓国職業能力開発院がキャリア教育資料として提供している実用音楽学科概要によると、歌手、音響エンジニア、編曲家、演奏者などを関連職業として明記しており、近年、実用音楽学科出身の歌手が多く活躍している。

実用音楽学科は、演劇映画学科に比べるとその歴史が浅く、1988年、初めて実用音楽学科を開設した<sup>(17)</sup>ソウル芸術大学<sup>(18)</sup>は、1993年まで実用音楽教育を行う唯一の高等教育機関であった。2014年現在、実用音楽学科を開設している大学は、190校<sup>(19)</sup>ある4年制大学のうち39校、137校<sup>(20)</sup>ある2・3年制大学のうち41校と合計80校で、設置大学数においては演劇映画学科を大きく下回るが、近年その数が急激に増えている。

下の図2は、実用音楽学科を設置している4年制大学と2・3年制大学の設立年度からその増加の推移を示したものである<sup>(21)</sup>。

4年制大学における実用音楽教育が始まったのは、大邱芸術大学（大邱）、韓瑞大学（忠清南道）で、金泉大学（慶尚北道）の3校が1997年、音楽学科に実用音楽専攻を設けたことからである（後に実用音楽学科として独立）。その翌年1998年には同徳女子大学（ソウル）と青雲大学（忠清南道）で学科として開設され、その後、2000年からは継続的に増加し、2014年現在、4年制大学総数の2割程度の39校が実用音楽学科を設置している。

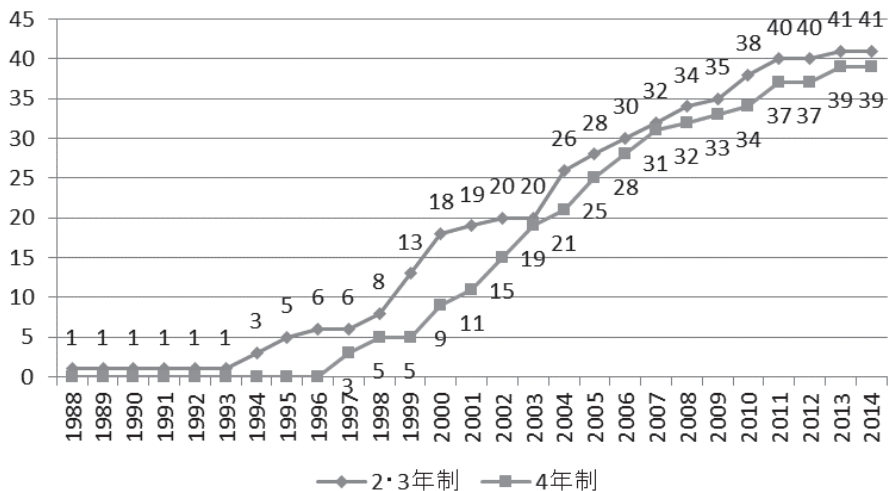


図2 実用音楽学科の増加推移

出典 シン（2011）データより筆者追加・修正作成

一方の2・3年制大学の場合、その開設時期が1988年と4年制大学より早く、1993年以降、継続的に増加していることが見て取れる。特に1998年から2000年の2年間と2004年に急激な増加傾向を見せる。その後は緩やかに増加しているのだが、それが4年制大学のような新設の動きではなく、既存のクラシック音楽学部を実用音楽学部に変更、または、その中に学科や専攻として増設する形で数を増やしている<sup>(22)</sup>。2014年現在、2・3年制大学全体の約3割である41校が実用音楽学科を設置しており、4年制大学を上回る。

大衆音楽の場合、歴史と伝統がある演劇映画分野やクラシック音楽とは異なり、文化の底辺に位置する娯楽であるとの認識が支配的であった。そのことが、高等教育における実用音楽学科の設置が遅れる、あるいは設置されたとしても、その中心が2・3年制大学及び地方大学にあった理由であると考えられる。しかし、2000年以降の韓国大衆音楽産業の著しい発展に伴う莫大な影響力が、2000年以降の急な増加傾向の一因であると容易に推測できる。

さらに、近年の韓国国内ではオーディション番組が大きなブームとなっており、その影響も見落とせない。2009年に放送された「Super Star K (M-net)」を皮切りに、「The Voice Korea (M-net)」、 「K-POP Star (SBS)」、 「偉大となる誕生 (MBC)」などのオーディション番組が放送され、どれも大きな人気を博した。中でも「Super Star K」と「The Voice Korea」、 「K-POP Star」は毎年シーズン制で製作されている。また、上記のオーディション番組出身者はメディアに大きく取り上げられたことはもちろん、大手エンターテインメント会社と契約し、歌手やアイドル、タレントなどの芸能人として活発に活躍しており、今やこのようなオーディション番組は芸能人の登竜門となっているといえる。

そして、このことが実用音楽学科の入試倍率にも明確に反映されている。実用音楽学科の2010年平均倍率（入学者／志望者）は83.2で、演劇映画学科の86.9を下回った、しかし2011年には105.9と大きく倍率が上がり、演劇映画学科の91.7を大きく上回った。また、当年最も倍率が高かったのは湖原大学のボーカル専攻で、その倍率は526.8であった。その他に、4年制大学では檀国大学が512.0、漢陽大学が484.8で、2・3年制でもソウル芸術大学が345.3、ドンア放送大学300.9で、すべてボーカル専攻の倍率である。その人気は現在まで続いており、今年9月発表された2015年度の大学入試随時募集<sup>(23)</sup>の結果では、実用音楽学科がその入試倍率（志願者／合格者）で上位5位を占め、1位の漢陽大学ボーカル専攻の入試倍率は436.2となっている<sup>(24)</sup>。ソウルに位置する40校の大学の平均入試倍率が18.3であることからすると、その人気は爆発的であるとまでいえる。

ここまで、演劇映画学科と実用音楽学科の増加の傾向を確認してきた。確実にいえることは、その増加の時期は異なるものの、両学科の発展が韓国のエンターテインメント産業の発展と密接に関連していることである。特に実用音楽学科に関しては、学問としてのその歴史はもちろん、設立の歴史も浅いながら、例を見ない急激な発展の傾向を見せているといえる。しかし、高等教育機関における芸術教育という観点からすると、両学科の発展過程は異なっている。演劇映画学科の場合、学科設置当初から4年制大学がその発展を牽引する役割を果たしていたのに対し、実用音楽学科は、最初は2.3

年制大学を中心に設置され始めたのだが、2000年以降4年制大学での設置が活発化してからは、その中心が4年制大学に移行しつつある。加えて、演劇映画学科が首都圏（主にソウル）の有名大学から地方の大学に普及したのに対し、実用音楽学科は、ソウル近辺の地域や地方大学から首都圏の有名大学に広がっており、その普及の方向が逆になっていることも相違点の一つである。

## 2. 芸能関連学科の発展の背景と原因

このような傾向の背景としてまず、メディアの発展が挙げられる。最大マスコミュニケーションメディアとしてのテレビの普及はもちろんのこと、インターネットも普及している。1990年代半ばから普及し始めたインターネットは、2000年代に急激に発展し、2013年の韓国インターネット振興院によるインターネット利用率（満3歳以上の最近1か月以内のインターネット利用者の比率）は81%に上る。また、その利用率及び利用者率を年代別に見てみると10代・20代・30代は99%を超えており、40代で88%、50代で57%、60代で35%となっている（韓国インターネット振興院：2010）。このことが、韓国のエンターテインメント産業の発展に拍車をかけたことは言うまでもない。このように映画やテレビ放送のみならず、インターネットなどのメディアからも芸能人に接する機会が格段に増え、身近な存在としての影響力が増しているのではないかと考えられる。それに、放送・音楽・映画などの文化産業が飛躍的に発展し、韓流支援政策<sup>(25)</sup>などの国家政策を通じた政府の後押しの下、世界規模で活発に消費されている現状も芸能関連学科増設傾向の背景であると考えられる。

また、今まで述べてきた通り、芸能関連学科は芸能人養成をその目的の一つとしており、進学する多くの若者が芸能人として芸能界での活躍を目標としている。また、芸能人が若年層の希望職業として常に上位にランクインしていることは共通理解を得ていることである。しかしながら、職業選択において安定性を最も重視する韓国人の意識からすると（韓国職業能力開発院：2010）、労働時間や収入が決して安定しているとは言えない職業としての芸能人の人気は例外的ものである。加えて、一般的に、芸能人に必要とされる能力が、外見などの先天的な才能に加え、芸術的な才能や表現力、創造力など、他の職業に要求される学歴や知識、技術などの明確に提示できるような基準がなく、その上、不確実さが支配する労働市場構造を持っている（イホソク他：2012）ことを踏まえると、上述の背景だけでは、爆発的な人気とも言える、芸能関連学科の入試倍率を説明しきれない。

では、芸能関連学科の急成長と職業として芸能人の人気の背景にはなにがあるのだろうか。

### 2-1. 韓国における芸能人の職業威信

そこで、近年韓国における芸能人の社会的地位が大きく上がっていることに注目したい。表1は、韓国の職業能力開発院にて実施されてきた職業に対する意識調査を基に作成した職業威信の順位をまとめたものである。日本でもその威信が高いとされる、医者、大学教授、法律家、CEOは多少の順位の変化はあるものの、韓国でも同様、高順位を維持していることがわかる。しかし、芸能人の場合、1980年代初めまでは、10位から12位と、中間くらいに位置していたのだが、2002年には8位、

表 1 韓国における職業威信（1967年～2006年）

	1967	1978	1983	2001	2006
医者	4	4	2	1	3
大学教授	1	2	3	2	2
法律家	2	1	1	3	1
CEO（社長）	3	3	5	4	4
聖職者	6	7	7	5	10
教師	9	9	9	6	8
放送局 PD	7	6	8	7	5
芸能人	<u>10</u>	<u>11</u>	<u>12</u>	<u>8</u>	<u>6</u>
新聞記者	8	5	5	9	7
公務員	11	10	10	10	9
警察官	13	12	13	11	13
会社員	12	13	11	12	11
自営業	15	15	15	13	14
運転手	14	14	14	14	15
半熟練工	16	16	16	15	16
農民	4	8	3	16	12
単純労働者	17	17	17	17	17

出典 韓国人の職業意識と職業倫理（2007）筆者翻訳

2006年には6位とその職業威信が上昇の傾向を見せていることが確認できる。

また、同機関によって2010年実施された、16歳から64歳の韓国人1500人を対象にした職業評価調査結果を見てみると、芸能人は23個の職業のうち、9位に位置しており、10代、20代はもちろん、その他のすべての年齢代において同位に位置しており、職業としての芸能人に対する、このような高い職業威信は、芸能人を積極的に消費すると考えられる若い世代に限られているものではないことを読み取ることができる。

このような、社会的な、職業としての芸能人の評価の上昇には、芸能関連学科の部分で説明した、大衆文化産業の著しい成長に伴う影響力の増大やそれを受けての政府の支援、加えて、映画監督や俳優<sup>(26)</sup>が文化体育観光部長官として政界進出していることによる芸能界そのものの威信上昇が挙げられる。また、成功した芸能人に限られてはいるが、メディアなどで報道される芸能人の収入の多さとの関係も推測できる。

表2 職業評価

	全体	10代	20代	30代	40代	50代	60代
1	判事	医者	判事	判事	判事	判事	判事
2	医者	判事	医者	医者	医者	医者	医者
3	高位公務員	高位公務員	高位公務員	大学教授	高位公務員	高位公務員	大学教授
4	大学教授	大学教授	大学教授	高位公務員	大学教授	大学教授	高位公務員
5	薬剤師	薬剤師	薬剤師	薬剤師	薬剤師	薬剤師	薬剤師
6	新聞記者	PD	新聞記者	新聞記者	新聞記者	新聞記者	中学校教員
7	PD	新聞記者	PD	PD	PD	PD	新聞記者
8	中学校教師	中学校教師	中学校教師	中学校教師	中学校教師	中学校教師	PD
9	芸能人	芸能人	芸能人	芸能人	芸能人	芸能人	芸能人
10	中小企業課長	中小企業課長	中小企業課長	中小企業課長	9級公務員	中小企業課長	9級公務員
11	9級公務員	9級公務員	9級公務員	9級公務員	中小企業課長	9級公務員	中小企業課長
12	大企業社員	プログラマー	大企業社員	大企業社員	大企業社員	塾講師	塾講師
13	塾講師	大企業社員	プログラマー	塾講師	プログラマー	プログラマー	大企業社員
14	プログラマー	塾講師	塾講師	プログラマー	塾講師	大企業社員	プログラマー
15	自営農	調理師	社会福祉士	社会福祉士	自営農	自営農	自営農
16	調理師	自営農	自営農	自営農	調理師	調理師	社会福祉士
17	社会福祉士	社会福祉士	調理師	調理師	社会福祉士	社会福祉士	調理師
18	飲食店オーナー	飲食店オーナー	飲食店オーナー	飲食店オーナー	飲食店オーナー	飲食店オーナー	飲食店オーナー
19	デパート販売員	デパート販売員	デパート販売員	デパート販売員	デパート販売員	デパート販売員	デパート販売員
20	工場勤務	工場勤務	看病人	工場勤務	工場勤務	看病人	工場勤務
21	看病人	看病人	工場勤務	看病人	看病人	工場勤務	看病人
22	タクシー運転手	タクシー運転手	タクシー運転手	タクシー運転手	タクシー運転手	タクシー運転手	タクシー運転手
23	マンション警備員	マンション警備員	マンション警備員	マンション警備員	マンション警備員	マンション警備員	マンション警備員

出典 韓国人の職業意識及び職業倫理（2010）筆者翻訳

## 結論と考察

ここまで、芸能関連学科を対象に韓国の高等教育機関における芸術教育の近年の動向を確認してきた。それを以下の4点にまとめることができる。まず、芸能関連学科が急激に増加し、大きな存在感を放っていること。また、その増加が韓国の大衆文化産業の著しい発展と密接に関連していること。さらに、高等教育機関の供給を大きく上回る需要が存在し、芸能関連学科をめぐる競争が激しさを増していること。最後に、職業としての芸能人の社会的地位の上昇をその背景として考えられることである。



このような動向は、今後の韓国のエンターテインメント産業を含む、文化産業及び文化そのものの発展に大きく寄与することが予想される。また、政府もそれを意図し、少子化による大学入学者の減少が予想されているのにも関わらず、新たな学科設置を認可しているのだろう。しかし、その狙いが成功するには現状の芸能関連学科が抱えるいくつかの問題を解決する必要があると考えられる。

まず、一番の問題点として挙げられるのが、教員の問題である。学士や専門学士などの学位が授与される高等教育機関である以上、学問そのものや教育を主導する教員の専門性は避けては通れない問題である。特に、実用音楽学科の場合、大学院の博士課程を設置しているところが極めて少なく、専門教員の養成があまり行われていないといっても過言ではない。2014年現在、大学院の修士課程を設置している実用音楽学科は12校で、博士課程を設置しているところは2012年に設置された漢陽大学のみである。そのため、ほとんどの実用音楽学科では、音楽理論の方では既存のクラシック音楽学位を持つ教員が、実技の方では実際のミュージシャンが教員の役割を果たしており、教員の専門性、および資格問題が度々批判的となっている。また、近年の演劇映画学科においても同様の現象がみられる。実際現役で活躍している俳優や有名映画監督が教授として教壇に立つことが多くなっており、彼らの資格をめぐる賛否両論がつきまとっている。このような、実際の俳優・歌手などの芸能人の教授起用には、そのことが大学の広告として有効な手段と考えられているからだろう。

また専門性を持った教員はもちろん教育内容や体系も不十分であることも問題として挙げられる。主に地方の非人気大学や2・3年制大学では、需要が急増する芸能関連学科を大学の生き残りをかけた教育商品としており、十分な準備なくして開設に踏み切ったことによる、カリキュラムの問題が浮き彫りになっている（ファン：2008）。

ここまで、韓国的高等教育機関における芸能関連学科の動向をみてきたのだが、本研究では、芸能関連学科のカリキュラムや教授陣、選抜過程、学生の卒業後の進路などの細部に渡る調査を基にする考察ができず、韓国の芸術関連学科の現状を描き切れたとは言えない。また、このような現象が社会へ及ぼす影響も十分に考察することができなかった。そこで、以上の2点を今後の課題としたい。

注(1) 演劇映画学科、学部、専攻はもちろん、韓国職業能力開発院の分類につき、映像映画専攻、演技専攻、演技芸術学専攻、演技科、メディア映像演技学科、アクション映画学科、などの細部関連学科を含む総括的な概念とする。（<http://www.career.go.kr/cnet/front/base/major/FunivMajorView.do?SEQ=352>：最終検索日2014年9月24日）

(2) 実用音楽学科、学部、専攻はもちろん、韓国職業能力開発院の分類につき、生活音楽科、芸術学部（実用音楽学専攻）、デジタル音楽学科、Post-Modern音楽学科を含む総括的な概念とする。（<http://www.career.go.kr/cnet/front/base/major/FunivMajorView.do?SEQ=329>：最終検索日2014年9月24日）

(3) 2.3年制、4年制大学において実際に存在する学科名

(4) 韓国統計庁ホームページ（[http://kssc.kostat.go.kr/ksscNew\\_web/index.jsp#](http://kssc.kostat.go.kr/ksscNew_web/index.jsp#)：最終検索日2014年11月20日）

(5) 韓国職業能力開発院ホームページ（<http://www.career.go.kr/cnet/front/base/major/FunivMajorView.do?SEQ=352#tab1>：最終検索日2014年9月23日）

(6) 韓国大学教育協議会の会員大学の総数（韓国大学協議会 <http://kcue.or.kr>：最終検索日2014年11月2日）

- (7) 韓国専門大学教育協議会の会員大学の総数（韓国専門大学協議会 <http://kcce.or.kr>：最終検索日 2014 年 11 月 2 日）
- (8) この数値は、学科名に演劇や映画、演技など含み、演劇映画学科と同じ類であると分類される学部・学科・専攻を設置している学校の総数である。本稿ではこれら全てを演劇映画学科と呼ぶこととする。（教育統計年報 <http://kess.kedi.re.kr/index>：最終検索日 2014 年 11 月 2 日）
- (9) ソウル芸術大学の前身である韓国演劇研究所が設立されたのは 1958 年だが、高等教育機関として学位が授与できるようになったのは 1964 年である。
- (10) マルチプレックスとは、日本ではシネマコンプレックスと呼ばれる複合映画館のことで、韓国の場合、一つの建物に複数の映画上映館や商業施設、また、展示場などを含む、複合娯楽施設を指す。
- (11) スクリーンクォータ制度は、基本的に外国映画の一方的な市場占有を防止する反面、自国映画の市場確保を容易にし、自国映画の保護と育成を誘導するための制度である。
- (12) 韓国映画産業（<http://terms.naver.com/entry.nhn?docId=2083811&cid=44415&categoryId=44415>：最終検索日 9 月 23 日）
- (13) イチャンドン（前第 40 代文化観光部長官 2003～2004、現韓国芸術総合芸術学校教授、慶北大学校国語教育学卒）
- (14) 韓国経済新聞（<http://www.hankyung.com/news/app/newsview.php?aid=2011100958291>：最終検索日 9 月 23 日）
- (15) 連合ニュース（<http://news.naver.com/main/read.nhn?mode=LSD&mid=sec&sid1=102&oid=001&aid=0005307908>：最終検索日 9 月 23 日）
- (16) 韓国職業能力開発院（<http://www.career.go.kr/cnet/front/base/major/FunivMajorView.do?SEQ=329>：最終検索日 2014 年 9 月 23 日）
- (17) しかし、設置当初は国楽科（韓国伝統音楽）の活性化を視野に入れ、国楽とほかの音楽ジャンル（特に大衆音楽）との連携を目的としていたもので、現在の形の実用音楽学科が設置されたのは 1989 年である。（ファンジョンヒ：2008）
- (18) ソウル芸術大学と東亞放送芸術大学校は専門大学ではあるが、一部の学科において 3 年間の修学後、もう 1 年修学することで 4 年制学士の学位が取得できる専攻深化課程を設けている。
- (19) 韓国大学教育協議会の会員大学の総数（韓国大学協議会 <http://kcue.or.kr>：最終検索日 2014 年 11 月 2 日）
- (20) 韓国専門大学教育協議会の会員大学の総数（韓国専門大学協議会 <http://kcce.or.kr>：最終検索日 2014 年 11 月 2 日）
- (21) 演劇映画学科とは異なり、韓国教育開発院の教育統計年報に実用音楽学科の分類項目が存在せず、音楽学科のその他の音楽学科分類に含まれていると思われるのだが、実用音楽学科の正確なデータを得られないと判断し、シン（2010）のデータを基に、2014 年までのデータを作成した。
- (22) 41 校のうち 8 校が音楽科の中の内部専攻として実用音楽専攻を設けている（シン：2011, pp16）。
- (23) 韓国の大学入試方法の一つで、日本の自己推薦入試のようなもの。修学能力試験（大学入試のための全国統一試験：11 月実施）の前に、高校での成績及び各大学の学部・学科ごとに設けた筆記・実技・面接試験を通して選抜を行う大学入試方法。
- (24) ソウル新聞（<http://www.seoul.co.kr/news/newsView.php?id=20140923023001>：最終検索日 9 月 24 日）
- (25) 韓国では、1994 年から文化産業振興計画を立て、1999 年文化産業振興基本法制定、2001 年には政策執行機関として韓国文化コンテンツ振興院を設立した。また、2005 年度からは「韓流の世界化のためアジア若手対象の市場拡大、文化産業専門人材研修拡大など長期的交流事業を進めるなど「文化」と「韓流」をめぐる様々な政策を広げてきた。
- (26) ユインチョン（第 44 代文化体育観光部長官 2008～2011、中央大学校大学院演劇学修士）

**参考文献**

- イムオン他「韓国人の職業意識及び職業倫理（2010）」2010, 韓国職業能力開発院
- イホソク他「放送芸能人の感情労働と職務ストレスが職務満足度に及ぼす影響」2012, 韓国コンテンツ学会論文誌 12 Vol. 12 No. 12, 616 pp ~ 626pp
- キムチャンナム他『大衆音楽の理解』2012, ハンウル
- シンケヨル「学制による実用音楽学科比較研究—2年制, 3年制, 4年制大学の設立歴史, 入試要項, 教科課程の研究」2010, 祥明大学校提出修士論文
- ジョンジョンファ『韓国映画史』, 2008, 韓国映像資料院
- チェゴンヨン『ビジネスとして見る韓国映画産業』2012, ヒョンソル出版社
- チャンホンゲン「韓国人の職業意識と職業倫理」2007, 職業と人力開発 2007 秋, 22pp ~ 31pp
- ファンジョンヒ「実用音楽教育に関する研究—入試競争率が高い大学を中心に」2008, 祥明大学校提出修士論文
- 韓国雇用情報院「2012 韓国職業辞典」2012
- 「2014 職種別職業辞典」2014
- 韓国職業能力開発院「韓国人の職業意識及び職業倫理（2006）調査基礎分析報告書」2006

**WEB SITE**

- 韓国職業能力開発院 <http://www.career.go.kr>
- 韓国教育統計サービス <http://kess.kedi.re.kr/index>
- 韓国統計庁 <http://kostat.go.kr/portal/korea/index.action>